

当面する東アジア情勢と日本の経済

拓殖大学特任教授 森本 敏

- *米国のリーダーシップの動向が鍵
- *重要なエネルギーのベストミックス
- *自己防衛的性格の集団的自衛権行使
- *安全保障面で広範な法整備が必要
- *ウクライナを巡る国際情勢
- *我慢比べのロシアと欧米
- *イラク情勢は危機的な状況
- *タフな交渉になる日中首脳会談
- *予想可能な拉致問題をめぐる日朝関係
- *法制上の隙間がある領域警備



柴生田 それでは開会いたします。（拍手）
1ヶ月お休みをさせていただいて、ホールを改装いたしました。大分明るくなりましたが、今日は再開第1回ということで、元防衛大臣の森本先生に来ていただきました。

森本先生はもともと防衛庁に入られて、自衛官として航空自衛隊の戦闘機部隊を中心に勤務された後、外務省に出向され、その後、外務省に転職されて上級職の外交官になりました。こういう例は日本では初めてだそうです。防衛、あるいは軍事の現場を知って、なおかつ外交経験もあるという方は、当然のことながら安全保障のために必要な人材でございますが、日本ではほとんど例がありません。先進国ではそういった方が多く、安全保障政策の中

心を担っておられるということで、日本もそういう措置をとることが考えられてよろしいのではないかと思います。今日はそういうことで先生から東アジアの問題につきましてお話をいただきたいと思います。（拍手）

米国のリーダーシップの動向が鍵

森本 お招きいただきありがとうございます。このところ暑くて不快な日々が続いていますが、この部屋は快適で、午後のよい時間でもありますので、お休みになりたい方はどうぞ遠慮なくお休みください。（笑）

私はお招きを受けたので、与えられた時間の中で頭の中にある問題をストレートにお話をし、後から皆様にいくつかコメント、質問もい